

2021 年度事業報告書

法人の名称 特定非営利活動法人農と福祉の未来・ハコベ

1 事業の成果

・(計画)「横浜都市農業推進プラン2019-2023」に基づき、「NPO 法人などが、教育や福祉事業として農地を利用する場合も、関係部局等と連携して、引き続き推進」する方針（施策2「横浜の農業を支える多様な担い手に対する支援」事業④「農業の担い手の育成・支援」(3)「個人・法人による新規参入の推進」）を、**地域、地主、行政の協力を仰ぎながら実践にうつしていく。**

・(成果) 法人設立前から作業できていた畑、田んぼ（計約 1300 m²）を継続して維持できた。また今年度は、当法人の活動に賛同していただいた有機農業者の協力の下で、隣接する畑で作業面積を増やすことができた（約 700 m²）。日常的な作業や企画、イベントなどで作業を行っていく場面において、地主さんや地域との交流が進みつつあるが、NPO 法人としての活動の認知や周知はまだまだ道半ばであり、行政も巻き込んだ形での安定的な協力、支援体制を求め構築していくことは次年度以降における大きな課題である。

・(計画)「横浜市都市農業推進プラン2019-2023」に基づき、都市の中の**緑・農的景観による癒しの空間を創出しつつ、自然農（不耕起栽培）の強み**（表土流出の防止、砂塵による近隣住宅への影響の防止等）を**活かした環境保全活動を軌道に乗せていく。**

・(成果) 自然農（不耕起、草生栽培）の強みを生かすことができた。近年は、予想を超えた天候の変化（大雨、強風、大雪、日照時間の極端な減少、酷暑、極端な季節の移り変わり）を経験することが増えた。隣接する田畑では、大雨が降ると土砂が車道まで流出していたり、強風が吹けば砂塵が吹き荒れたりしていた。自然農では、作物や草が適切な管理によって地表を覆うために、

前述のような事態が起こることがほぼなく、近隣住民へのマイナスな影響が抑えられたと実感している。その一方で、自然農は草や虫を敵にしない農であるが故に、草の適切な管理や景観の維持を高度に保たねばならない。そのためには、自然農の従事する私たちの美的感覚や芸術的感性を発揮しつつ、市民が初めて目にし触れる自然農の田畑に対する「まなざし」や「感覚」にも十分留意しマッチさせ賛同を求めている。今年度は、自然農講座や日常的な活動を多くの皆さまと進めることができ、この活動の端緒につくことができたと思う。

・(計画) 広く一般市民を対象としながらも、これまで横浜で培ってきた精神保健福祉ボランティア活動、サロン活動の精神を大切に、こども、子育てに奮闘する家族、障がいを持つ人、社会的ハンディキャップを持つ人々と共に、農的自給活動による**自己の力能の増大と芸術的感性の増大を実感できる新たな「日常」をつくる。**

・(成果) 自然農講座やマルシェを通じて、多くの方に来園していただくことができた。自然農との出会いや新たな人と人との出会いを演出することができた。参加者は、農を体験したり収穫物を消費したりすることにとどまらず、自然農との比較を通じてこれまでの慣行的な農のあり方や食のあり方ひいては自らの暮らし方を見直す契機となり、自分たちの暮らす社会における課題や目標を主体的に見出しながら活動する「自然農人」になりつつある。

・(計画) 私たちは、個々人の創造的な能力を奪う一つの価値基準にのみ基づいた世界を拒否する一方で、「**互いに学び合う複数の世界を活性化することを目指す。**」私たちは、「専門家たち」に「ありえないこと」と一笑に付された「メルトダウン事故」を現実にならんと引き起こした。私たちは、半永久的に大地と水を汚し続け、すべての命を傷つけ続けている。この「**現実**」から私たちは出発する。私たちは、「地元」、「目の前の人」、「小さな草花」、「虫や微生物」、「発酵」を大切

にする。同時に、世界各地で展開されている反省的かつオルタナティブな経済活動（「贈与による経済」「pay it forward（アメリカ）」「ゼロ予算自然農法」（インド））等に学び、持続可能な世界のあり方と生き方を模索する。これらをローカルに、ミクロに実践することから私たちは始める。

※補記：私たちは、このコロナ禍の中で「命か経済か？」という思考を停止した議論に陥ることなく、当然のごとくいのちを最優先しながら、経済においても自律的に何年でも回せるような持続可能な活動と生活を追究する必要がある。今こそ「誰一人取り残さない」決意のもとで、SDGsの理念を追求していくことが求められている。

・（成果）大きな活動理念を前に私たちの活動は端緒についたばかりである。対「自然」においても対「世界」においても私たちは、多くの場合「見えないもの」を対象にしている。残念ながら、私たちは鈍麻した感覚や飼いならされた従順すぎる感性や知性によって、世界や自然に生じている変化の多くを察知することができておらず、また察知してもそれに呼応する力を削がれ、結果として悲劇的な過程に対する加担者であるか傍観者になってしまっている。私たちが全ての課題を解決することは到底できないが、自然農を実践することによって生命の根幹である食べ物を自分たちの手で少しでも確保していくことを通じ、行き過ぎた分業や依存、機械の歯車化から脱却し、何もできないと思い込まされた「私たち」から何かができる「私たち」へと脱皮しようとしている。私たちは一つの野菜との出会いから、「何かが違う」ことを察知し、これを足がかりに自然の力や恵みを信じ、世界に向けてアプローチしていく「私たち」「仲間」を得ることができた。スタートラインに立つことができた。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 農体験、緑地保全、環境教育などを通じた生涯学習事業

- ・ 内 容 自然農講座、保育園年長さんたちとの田んぼ体験、個別体験

耕さない、草や虫を敵にしない、持ち出さない持ち込まない、を理とした自然農の魅力や意義を伝え、土の上の作法と所作を身に着け、自らも実践できる力を養い、自己の力能の増大を目指す。段ボールコンポストの方法などを紹介し、家庭でもごみの減量化と資源化が実践でき、循環型社会の有り様を展望できる仲間を増やす。

- ・ 日 時 毎月第一日曜日、自然農講座（6回）

保育園年長さんへの田んぼ体験事業（3回）

個別体験事業（8回）

- ・ 場 所 青葉区の菜園、田んぼ、戸塚区俣野の特区農園等

- ・ 従事者人員人 64人

- ・ 受益対象者 市民100人

- ・ 支出額 94,363円

② 地産地消を推進する事業

- ・ 内 容 自然農マルシェ

有志宅の軒先をお借りし、新鮮な自然農野菜を配り、お茶や野菜を使った料理、お菓子等で来訪者を歓待し交流する。近隣の方々の近況を伺ったり来訪者のご様子を伺ったり、又通りすがりの方にも声をかけお野菜を通じた繋がりを作る。ハコベにおいては、野菜は自然からの恵みであるということを強く印象付けたいという考えから、売らずに配ってい

る。しかし、そのつど、私たちは「自然農」実践の意義を説明し活動継続のためのご支援を求め、結果として自由な感じでご寄付をしていただくことができた。また「自然農季節のお便り」と称し、マルシェに来れない方で希望する方については、最低（夏と冬の）2回、季節を感じることができる自然農野菜をお送りすることができた。

- ・ 日 時 マルシェ毎月第4日曜日（計7回）
- ・ 場 所 横浜市中区花咲町
- ・ 従事者人員 56人
- ・ 受益対象者 市民240人
- ・ 支出額 マルシェ 9,981円

③ 障がいを持つ人と持たない人との交流を通じた啓発活動

- ・ 内 容 農カフェ

有志宅の軒先をお借りしたり、自然農菜園にてテントを張ったりして農カフェを開催する。そこでは障がいを持つ人も持たない人も等しく活動し、野菜料理、お菓子等で来訪者を歓待し交流する。近隣の方々の近況を伺ったり来訪者のご様子を伺ったり、又通りすがりの方にも声をかけお野菜を通じた繋がりを作っていく。

- ・ 日 時 不定期（月に1回程度）
- ・ 場 所 市内
- ・ 従事者人員 0人
- ・ 受益対象者 市民0人
- ・ 支出額 0円

④ 障がいを持った方及びそのご家族への相談支援事業

- ・ 内 容 個別相談支援

これまで 25 年間行ってきた精神保健福祉ボランティアの実績や精神保健福祉士、看護師等のマンパワーを活用して、誰もが人権を保障され平和に生きる権利を行使できるよう支援する。

- ・ 日 時 随時

- ・ 場 所 市内

- ・ 従事者人員 26 人

- ・ 受益対象者 市民 13 人

- ・ 支出額 0 円